

令和7年度仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A:大変良好 B:良好 C:やや課題あり D:改善の必要あり

大項目 小項目	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
			評価	評価に関するコメント(教職員・学校運営協議会)	評価	評価に関するコメント	
I 学校経営全般	①	学校経営管理全体計画は、社会のニーズ、子どもや地域の実態、学校の課題を踏まえたものになっている。	A	・来年度に向けて、子どもたちの「やってよかった」「分かってよかった」「頑張ってたよかった」といった自己肯定感や自尊感情が増すような方策を、考えていきたい。新しいことを増やすのではなく、力を注いできたこれまでの取り組みをマイナーチェンジする方向で考えたい。 ・体育主任、特活主任など主任にどうしても負担がかかっているように感じる。もっと分業できるなら行いたい。	A	・運動会の校歌の大きな声をきいて、学校が今、とっても充実して、子どもたちにとっても楽しい場所になっていると感じた。特に6年生が最後までぐらぐらしないで話を聞いていた姿に成長を感じた。 ・下校時の挨拶はよくできている。その時以外でもできることを期待する。	・子どもの実態や保護者・地域の思いを引き続き把握し、重点目標をより分かりやすく示していく。 ・学校運営や学級経営の中で、教育目標を具体化した取組を子どもの状況に応じて進めていく。 ・「自分を高める3つの行動」が定着するよう、具体的な目指す姿を子どもや教員と共有し、振り返りを通して次の指導に生かす機会を定期的に設ける。 ・子どもの実態に即した教育課程となるよう、改善と検証を継続する。 ・チーム担任制については、改善を重ねながら効果的な活用を図る。(学校だよりでの事例紹介、授業参観での設定、担任間の役割調整など)
	②	学校教育目標(あなたもわたしも大切に みつけよう☆いいところ)や学校経営方針を理解し、意識して実践している。	A	・4月の紙の印刷代を見ていると、テトルで配信しているにも関わらず、増えているので全体的に節約しようとする姿勢を持ち続ける必要があると感じる。 ・『額に汗して「そうじ」』については、クラスごとに取組みの差があると思う。そうじスタートの合図の前から黙々と頑張るクラスもあれば、そうでないクラスもある。自分を高める3つの行動の1つであるので、特に重点的な指導が必要だと思う。発達段階に応じて、なぜそうじをクラスのみんなで取組むのか、子どもたちが必然性を感じられるような仕掛けが必要だと思う。ただ「やりなさい」だけでは子どもたちには響きにくいと思う。ほとんどそうじを頑張らない子が少しでも頑張る姿があれば褒めるから始め、クラス全体でそうじについて振り返る時間をとることや、頑張っていたクラスの子を全体に紹介するなどでもできると思う。	A	・自己肯定感を高めることにつながる声かけを地域でも積極的にしていきたい。 ・「聴く」ということは、生涯を通じて必要となる力である。継続した取り組みを期待する。	
	③	子どもは、自分を高める3つ行動である『時と場に応じた「あいさつ」』ができるようになっている。	A	・部会で計画する行事等は複数担当にはなっていますが、基本的に主担当が進めている。部会ごとに年度初めに分担をしますが、行事などごとに分担がない場合は特に何もせず主担当の先生に計画や準備を任せている状態である。部会内での業務を平等にし、主任の先生だけが動くことがないように年度初めの分担の際に確認が必要である。	A	・子どもたちが明るく活発に育っていくよう、地域としても協力していきたい。	
	④	子どもは、自分を高める3つ行動である『人の話を「聴く」』ができるようになっている。	B	・チーム担任制では各学年で具体的にどのように運営したり、工夫しているのかが、保護者の方にはわかりづらかったと思う。 ・自分は経験が浅いため、学校全体に関わる役割が少ない中だが、分からないこと、初めてやることを周りの先生方が助けてくださる場面が多くありがたい。 ・チーム担任制の運用について、保護者、子どもへのアンケートからは概ね肯定的に受け止めていただいているようである。しかし、明瞭な役割分担、学年の発達段階に応じた柔軟な運用、保護者への周知などについて、今後の課題として改善を図っていきたい。	A		
	⑤	子どもは、自分を高める3つの行動である『額に汗して「そうじ」』ができるようになっている。	B			評価委員の評価はありません。	
	⑥	教科担任制度関連の取組み(専科教員、4年入り授業、3年少人数指導、特支多人数アシスタント、学校生活支援員、SSS、学校司書等)は十分機能している。	B				

令和7年度仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A:大変良好 B:良好 C:やや課題あり D:改善の必要あり

大項目 番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
		評価	評価に関するコメント(教職員・学校運営協議会)	評価	評価に対するコメント	
Ⅱ 主体的・対話的で深い学び	① 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践に努めている。	A	・「読み解く力」加配(国語科)のおかげで、授業が格段に改善されているように感じる。計画的に、授業を組み立てられ、子どもも楽しそうにする場面が増えた。 ・今年度は国語科の担当教員と担任で子どもの姿から課題作りや授業の流れについて常に考えていて、相手意識がもてるアウトプットの方法に工夫をされた学習内容になっている。主体的・対話的で深い学びの実現につながると思う。 ・学習中の関係性が、普段の生活にもつながることができれば、トラブルやいじめにつながることは減っていくと思う。人権の日や人権の取組と、聴き合い学び合う学習のつながりを考えていきたい。	A	・中学年がクラスごとにならんで地域学習をしている場面を見た。仲良く目的をもって学ぶ姿勢が見られた。よい学びの集団作りが形成されている。 ・多くの人たちとの協働作業ができる仕組みづくりを、これからの期待する。 ・子どもからの話を聞いたり、授業風景をみる中で、十分取り組んでいることが伝わってくる。	・教育目標を中心に据え、「人権の日」の取組、「学び合い学習」など、全教育活動で進めている取組をさらに充実させ、支持的な風土を育てていく。また、日常の授業における友だちとのコミュニケーションの時間を増やし、心のつながりを深めていく。 ・校内研究組織や情報教育部を軸に、PDCAサイクルを活用しながら授業改善を継続し、ICTの活用とともに情報モラル教育の推進、情報セキュリティの整備の見直しを続けていく。
	② 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)に取り組んでいる。	A	・多くの先生方の授業を見たり、取組の共有をする中で、仰木の里小の特色であるペアやグループでの話し合いを多く取り入れることで自分の意見をもって話したり書いたりする力が全体として身につけているように感じる。自分の授業でも意識して取り入れることで1学期からの積み重ねによる成長を感じることができている。 ・「読み解く力」の研究は、特に子どもたちの「学習に向かう力の向上」に成果があったと思う。今年度上手いったやり方は、来年度に必ず生かしていきたい。 ・ペアワークでは、どのように聞いたり尋ねたりするとよいか確かめながら実践を行ってきた。まだまだ深まっていないことはあるが、これからも続けていきたい。	A	・ICT機器の活用が進んでいくと思うが、紙の教科書や実際に字を書くことなどの大切さがある。デジタルとアナログの双方の良さを踏まえ、バランスのとれた活用を期待する。	・校内研究では、これまで重視してきた「聴き合い、学び合う」学習活動を基盤に、子どもの興味・関心を引きつけ、学習内容の理解を深めるための研修機会をさらに確保する。 ・「読み解く力」の加配を通じて取り組んできた授業づくりについて、本年の取り組みの成果をいかした国語科の授業づくりに取り組んでいく。
	③ 主体的・対話的で深い学び(聴き合う、学び合う)を追究する授業研究や研修会に取り組んでいる。	A			評価委員の評価はありません。	

令和7年度仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A:大変良好 B:良好 C:やや課題あり D:改善の必要あり

大項目	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
			評価	評価に関するコメント(教職員・学校運営協議会)	評価	評価に対するコメント	
Ⅲ 道徳教育の充実	①	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的实践力を育てる活動の実施に努めている。	A	・人権の日の取り組みが子どもたちにとって無意識に人権のことを理解することができる時間になっていると感じる。またクラスだけでなく全校で考えようとする姿勢もとてもいいと考える。 ・学校教育目標を軸に、学校生活全般で道徳教育を子どもたちと行っていく必要があると思う。しかし、現状は、そのような視点で子どもたちの関わり方や生活態度を見切れていない所も多いと感じます ・道徳科についての職員研修をしていきたい。	B	・家庭においても、道徳的意義に関わる会話がもっとできるとよい。 ・学校目標にある「いいところを見つける」という前向きな態度が子どもたちに浸透してきているように思う。まさに、実践的な道徳教育の成果だと感じる。 ・将来社会に出ても他人と共存できる人間形成を意識して指導してほしい。 ・地域や家庭、学校など、周りの大人がマナーやエチケットを指導できる仕組みづく期待する。 ・引き続き子どもたちの心の育ちに見合った道徳教育の充実を期待する。	・道徳科の授業では、子どもが自分事として考えられるようにしながら、道徳的実践力の育成に取り組み、その力の向上につなげていく。 ・道徳ノートの活用については、年度初めに職員会議などで提案し、定着を図るとともに、道徳教育推進教師による研修や授業の相互参観の機会を設けるなど、研修の充実を進めていく。 ・道徳資料の整備を継続し、子どもの実態に応じた資料を提示できるよう努めていく。 ・次年度も「道徳参観」を学校行事に位置づけ、学習内容や授業の様子を通信やホームページ等で伝えるなど、保護者との共有を図り、家庭との連携を深めていく。
	②	保護者等への道徳科の授業公開を行っている。	A		A		
	③	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発、整備・交流に取り組んでいる。	B			評価委員の評価はありません。	

令和7年度仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A:大変良好 B:良好 C:やや課題あり D:改善の必要あり

大項目	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
			評価	評価に関するコメント(教職員・学校運営協議会)	評価	評価に対するコメント	
IV 体力づくり	①	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めている。	B	・日々の体育科学習だけでなく、運動委員会を中心にスポーツイベントを計画したり、スーパートライを実施したりすることで、体を動かすことに対する意欲を高められていると思う。 ・どのような取組をしていくのか、共通理解が不足しているところがあった。 ・子どもの体力向上に寄与するような授業は実践できていないため、進んで体をうごかすきっかけになるような活動を仕向けらるという。 ・スーパートライなど、自主的に運動に取り組む姿勢をつくるのに相応しいイベントがあるにも関わらず、参加者が今年少なかったように感じる。(クラスによって差がある。) ・2年生は外部の先生の出前授業もあり、体を動かすことや体育の授業に積極的だと思う。ただ子どもたちの体力向上には直接的につながっていないと感じるので、新たな取り組みの必要性を感じる。スーパートライも参加した子どもが一部になっていたのは残念である。	B	・体育に関わる日常的な取組をこれからも期待する。 ・コロナ禍以降、子どもが家の中で遊ぶことが増えたように感じている。家庭でも、外で体を動かす働きかけができるとうい。	・体育科学習で運動量を確保し、体力向上につなげるため、学習資料の蓄積や研修の充実を進める。短時間で行えるミニ研修も充実させていく。 ・体力テストで課題となっている項目については、体育委員会を中心に、楽しんで取り組めるイベント等を検討していく。スーパートライについても、人と比べるのではなく自分に挑戦する機会として、主体的に参加したくなる取り組みを検討していく。 ・年間を通して、簡単な運動に取り組める機会を設けるようにする。 ・スーパートライ期間や体育イベントなど、運動を楽しめる環境づくりを引き続き進めていく。
	②	体力づくりを推進する運動実践に取り組んでいる。	B	・体育の宿題を復活するのは難しいと思うが、朝の会にでも、簡単なストレッチや「机でつばめ」「片足立ちバランス」「足じゃんけん」「つま先立ち」「片足つま先立ち」「ゆっくり10秒かけて座る」「ゆっくり10秒かけて立つ」「ジャンプ」「エアなわとび」「その場スキップ」「エアキャッチボール(または折り紙で紙鉄砲)」「方向体操」「深呼吸(めちゃくちゃ息を吸いまくっておなかを膨らませる、吐きまくっておなかとおしりの筋肉を強く締める)」等々の体を動かす・目覚めさせるメニューを各学年ごとに毎朝いくつかずつ取り入れることもよいと思う。	A		
	③	生涯にわたって健康を保持し、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めている。	B			評価委員の評価はありません。	

令和7年度仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A:大変良好 B:良好 C:やや課題あり D:改善の必要あり

大項目 番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
		評価	評価に関するコメント(教職員・学校運営協議会)	評価	評価に対するコメント	
V 指導改善 (組織的・計画的)	① 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善に努めている。	A	・年7回(各学期2回程度)の校内研究会や、読み解く力加配教員による国語科の授業のフィードバック、学年での交換授業を行うことで、自身の現状を捉えたり、同僚の良さを学んだりする機会を多く確保できていると思う。 ・指導力向上のために、研修で学んだことや先輩教員から学んだことを実践するようになっている。 ・「読み解く力」に関わる授業に入っているときには、1時間ごとに授業のフィードバックができるので次の日の授業から改善することができるという点でとても良い。 ・子どもを丁寧に見とる。具体的には、「寄り添いながらしっかり話を聴く」「未来志向で話をする」が、教員の間にずいぶん浸透してきたと感じている。だが、まだ不十分なところも見受けられる。組織的な浸透、実践をさらに進めていきたい。	A	・質を高めるには若い先生方に学ぶ研修の機会を保障することが大切である。また、教職員の成功体験を増やすことが重要だと思う。 ・「先生が忙しそうにしているので話しづらい」との声を子どもから聞くことがあった。業務改善に努め、子どもと関われる時間の確保を期待する。 ・取組を検討する際には、スクラップ＆ビルドの精神で進めてほしい。職員が疲弊すると、子どもにとっても良い影響をもたらさないため。	・全校で進めている「聴き合い、学び合う」活動を重視しながら、教員同士の授業参観や授業研究を推進し、保護者への家庭学習協力の啓発も行い、子どもの学ぶ力の向上につなげる。次年度についても、国語科を中心に「読み解く力」の育成に取り組む。 ・教職員一人ひとりの業務改善を進め、学校全体で働き方改革を推進し、教職員が生き生きと業務に取り組める環境を整え、教育活動の質の向上につなげる。 ・OJTなどの研修機会を確保し、必要な研修は各部会のリーダーを中心に進め、教職員の指導力向上に努める。
	② 働き方改革の取組と教育活動の質の改善に努めている。	A		A		
	③ 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上に努めている。	A			評価委員の評価はありません。	

令和7年度仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A:大変良好 B:良好 C:やや課題あり D:改善の必要あり

大項目	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
			評価	評価に関するコメント(教職員・学校運営協議会)	評価	評価に対するコメント	
VI 育ちと学びを支える連携	①	子育てや家庭教育に対する保護者への積極的な支援に努めている。	A	・5年生では、5歳児さんと交流する時間(5・5交流)を各学期に3回ずつ設定した。交流実践後は、教員同士で振り返りを行い、次の実践で改善ができるように工夫をした。 ・参観も多くの保護者の方にご覧いただき子どもたちの様子を伝えられていると思う。また多くの人の支援が必要な学習の際には地域のボランティアさんに助けていただくことで、子どもたちも自分たちも安心して学習に取り組めることができるのでありがたい。 ・学校としてやるべきこととそうでないこと、外部の機関に任せることなど、はっきりさせて取り組んでいく必要がある。 ・新1年生がスムーズに学校生活に慣れられるよう、保幼小連携を大切にしたりスタート時の授業展開を工夫したりすること続けたい。 ・地域の方がとても協力的で、学校の強みである。	A	・地域との交流は、防災、防犯、交通安全をはじめ、多岐におよんでいる。 ・情報を密にして子どもの安全に大きに寄与している。 ・里フェスタでの子どもたちの活躍する姿は本当に地域に根付いた生きる力となっていると感動した。 ・地域の見守りや学習の支援等、地域の協力を保護者として大変感謝している。 ・地域と学校が連携した取り組みを今後も検討していければと思う。	・常に子どもを中心に据え、保護者と連携しながら支援を進めていく。 ・学校を保護者や地域に開き、子どもの学びや安全がより充実するよう、保護者や地域への働きかけを続ける。 ・HPや学校便りなどを通じて、教育活動や子どもの様子を保護者・地域に発信していく。 ・子どもの視点に立って校内を点検し、危険箇所の修繕に努めるとともに、安心して過ごせる学校づくりを進める。自分を守る力を育てることを目標に、地域や関係機関と連携し、防災教育や避難訓練の計画・実践、職員研修の充実を図る。 ・保幼小中連携(保幼小・小小・小中)については、教員同士の連携をさらに深め、よりよい交流の取組を検討する。次年度も近隣保育園との交流活動を継続する。 ・今年度は幼稚園の研究会に参加し、入学前の園児や教師の支援について学んだ。次年度以降も継続していく。
	②	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用に取り組んでいる。	A		A		
	③	防災教育の推進、感染症対策の推進、施設設備についての日常点検等、安心・安全な学校づくりに取り組んでいる。	A		A		
	④	子どもの校種間交流や教員の出前授業に取り組んでいる。	A		A		
	⑤	校種間の授業公開や合同研修会に取り組んでいる。	B		A		
	⑥	保幼小中の接続期の教育課程の編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究に取り組んでいる。	A			評価委員の評価はありません。	

令和7年度仰木の里小学校 学校評価書

数値評価 A:大変良好 B:良好 C:やや課題あり D:改善の必要あり

大項目	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価		今後の改善に向けて
			評価	評価に関するコメント(教職員・学校運営協議会)	評価	評価に対するコメント	
Ⅶ 組織的 体制の 充実	①	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に取り組んでいる。	A	・複数の教員で対応できる体制になっている。また、教員間で相談しやすい雰囲気づくりもできている。 ・子ども支援コーディネーターや、教育相談担当の先生方を中心に、担当が問題を一人で抱えることなく、組織で連携しながら問題を解決できている。 ・学校で起きたことをクリアにするために教師間での連携、丁寧な対応、保護者への連絡が学校としてできていると思う。できているからこそ保護者の方も協力してくださると思う。個別の支援計画に関しても保護者の方の理解と協力があってこそできているのでその姿勢を忘れないように心がけたい。	B	・ますます課題が複雑で難しいものになっていると思うが、可能な限り家庭や地域、関係機関にまかせて先生方が少しでも多く子どもたちと過ごす時間を確保していけることを期待する。 ・本来家庭で教育すべきこともある。学校に依存しすぎない意識も必要と考える。 ・いじめについては、その背景にも目を向けて対応する姿勢を大切にしていほしい。	・生徒指導においては、子どもの最大の利益を基準とし、家庭・地域・関係機関と適切かつ組織的に連携しながら課題解決を図る。 ・特別支援教育については、共通理解が必要な内容を打ち合わせ等で全体に共有する。学級担任は、特別支援コーディネーターとの連携を密にし、情報共有に努めるとともに、保護者との連携を深め、必要に応じて個別の指導計画の作成と活用を引き続き確実に行っていく。 ・チーム担任制を効果的に活用し、多くの教職員で子どもたちを見守っていく。また、情報共有に努める。 ・校内ウイング(ホッとルーム)を効果的に運用していく。 ・関係者との情報共有を確実に行い、相談体制の充実を図る。
	②	家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めている。	A	・生徒指導事案やいじめ事案など、いつも管理職の先生方や教務主任、フリーの先生方にすぐに報告・連絡・相談させてもらい、一人で抱え込むことなく、組織的な対応が出来ていると感謝している。 ・子ども支援コーディネーターがすべてのいじめ事案等に関わるのが難しい状況もあるので、チーム担任制を生かし、担任同士(＋その学年担当のフリー)で、より密に連携していくようになるとありがたいと思う。そのために、個々の生徒指導力のスキルアップも必要だと感じる。	A		
	③	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を行っている。	A	・教務団を中心に組織的な対応がなされていることは安心感がる。とはいえ、先生方個々の力量アップは、今後ますます必要になる。	A		
	④	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立に努めている。	A		A		
	⑤	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進に努めている。	A			評価委員の評価はありません。	
	⑥	関係機関と連携した相談体制の充実に努めている。	A				